

第5号議案

中期事業計画見直しの考え方（案）について

1 中期事業計画と見直しについて

中期事業計画は、2018年度決算において、今後5年程度の事業計画、収支見通しを立てて、今後の予算編成をすべきという趣旨の監査意見を踏まえ2019年度に策定した。

その際に3年後を目途に見直すこととされていたことから、今般、その見直しを行うものである。

また、学会の活性化策の検討のため、魅力向上委員会と情報発信委員会が設置され、2023年度を目途に対応策の検討が進んでいることから、中期事業計画は、まずは、これらの検討にあたって、主として財政面からのサポートを行うものと位置付ける。

2 見直しの考え方

(1) 計画策定後の経過

2019年度の計画策定時には、会員数の減少等により、財政状況が悪化していくことが想定されたことから、経費削減を主眼に置いた収支改善を目指した。

計画策定直後の2020年度から、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、対面での大会が開催できないなどの特別な事情が発生したことから、学会や大会運営等に係る交通費等が削減されたほか、大会開催もオンラインとなったため、結果的に経費削減が実現した。

また、会員減少傾向も想定の年5%減がやや改善され、2～3%の減少にとどまったところである。

これらの事情を勘案しつつ、残りの事業期間である2025年度までに加え、参考としてさらに3年間（2028年度まで）を期間として見直しを行う。

(2) 見直しの考え方

①DXの活用

新型コロナウイルス感染症により、新しい生活様式が社会に浸透し、オンラインを使った各種の活動が普及した。これを受けて、今回の見直しもDX技術を活用した運営の合理化を進める。

②他の検討組織との連携

本計画策定時には、会員増加策も検討すべきとしており、2023年3月の評議員会において、「魅力向上方策検討委員会」、「情報発信方策検討委員会」の2つが組織され、会員数増加に向けた取り組みを行うこととされた。

両委員会は、2023年度中を目途に対応策を検討することとしており、その成果を今後の推計に反映させることも必要となる。

(3) 今年度の取り組み

以上のことから、今回の見直しは、次のように行う。

①会員数増減の複数パターンの想定

前述の両委員会による改善策は、2023年度総会の時点では未策定の見込みであることから、会員数増減について、楽観的見通しから悲観的見通しまで、数パターンを検討する。会員数増策等に要する新たな経費は、具体的に判明しないので、一定の仮定を行う。

②経費削減について

経費の削減について、当初の中期事業計画では会員数の減少に比例して、支出額も減らす想定であったが、具体的な削減内容の検討は行わなかった。

今回は、学会の実施している事業について、DX 技術等も活用しながら、実施可能な削減策を検討したが、大きな金額を生み出すことは難しい状況である。

③WEB 大会の想定

今般の新型コロナウイルス感染症の対応において、web を利用した学会運営が本学会以外でも行われた。そこで、今後は対面と web の併用により、参加者数の増加や学会の魅力向上にも資する取り組みとして検討する可能性が高いことから、現時点での経費を想定し財政見込みに折り込むこととする。

なお、検討の過程で、経費は開催の仕方により変動の幅が非常に大きいことが判明したため、実施の可否も含め具体的な方法については、理事会等での判断を要するものと考えられる。

(4) 中長期的な検討の必要性

z 今回の中間見直しは、比較的すぐに実施可能と思われる対策と新たに設置された2つの委員会が提案する対応策が射程である。しかし、今後の財政状況等の推移によっては、さらに踏みこんだ対策を検討する必要も生じうる。

例えば、学会誌のオンライン化、大会の web 化などである。財政対策と学会の魅力の維持向上については、中長期的な視点から検討する必要があると思われる。

なお、今般設置された両委員会の成果をもって、2024 年度以降に改めて推計を行うこととする。また、今後は本学会でも DX 活用がさらに進むと思われることから、これを担う組織の設置の必要性についても併せて検討すべきである。

(今回の簡易な試算によれば、学会の財政状況は厳しいが、両委員会の対策などが未定なため、具体的数値は示さないこととする)